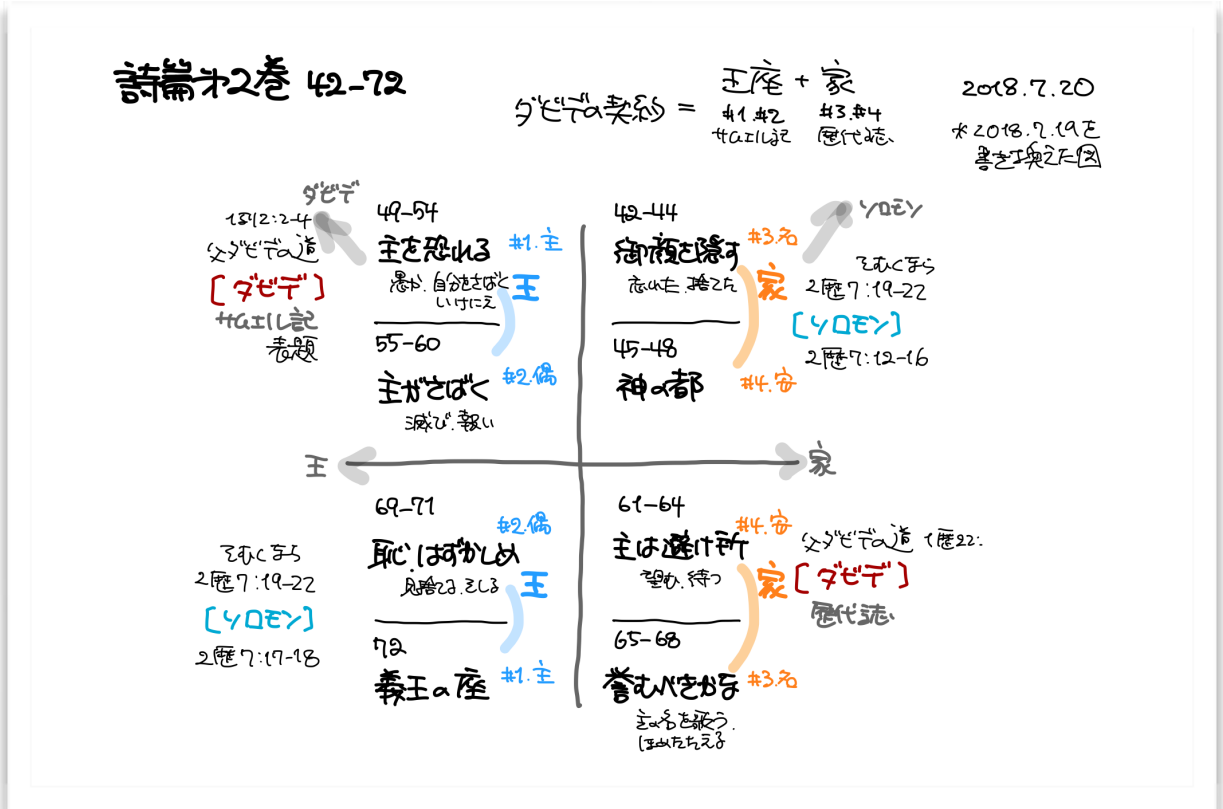




詩篇第2巻

詩篇42-72篇の配列構造



詩篇第2巻の分析をしているところです。42篇から72篇。「4つの段落に分かれていて、それぞれ2つのもので構成されています」ということを説明しましたがけれども、これを書き換えると、いつもの十字架の4分割の形に換えるようになります。

外側(42-48,69-72)がソロモンの話で、真ん中(49-60,61-68)がダビデの話と言っていました。外側が完成の部分。そして、ダビデの道を歩むならば(真ん中)、その子ソロモンが王座について宮が建てられる。

ソロモンの宮が建てられるというつながりについて、もう一度まとめたのがこちらです。ソロモンの神殿を建てたあとに神様が答えてくださる。ソロモンの祈りがありますね。第2歴代誌のほうで見えています。そのソロモンの祈りに答えて神様が現れて…7章12節からのところで、夜、ソロモンに話してくださるという祈りに対する答えが、この2つ、42編から48篇と69篇から72篇の概略になっているだろうということです。

宮を建てました。そして、王座を硬く立てますというところが、45篇から48篇と72篇。これは良いでしょうということですが、この前のところ、穴からの復活みたいな感じの穴から落ちているところ42篇から44篇と69篇から71篇があります。これは、何だろうと。神様が見捨てている、神様に捨てられている、恥をかいてはかしまを受けている、御顔を隠されているというこの段落は何だろうということだったのですが、ソロモンの神殿が建てられたときに、最初に主が語ってくださったことばです。直接、神殿

の中で聞いたことばではないです。ソロモンは神殿の中に入っているわけではないですし。

詩篇2巻 42-72 [ソロモンの宮のつばきから] 2018.7.20  
 主が語らう最初のことば

● 42-44/45-48  
 ● 69-71/72

42-44 御顔と隠す #3.名  
 志の座 掩る

45-48 神の都 #4.名

69-71 王 #2.名  
 恥(おかしめ) 足踏ひえし

72 義王の座 #1.主

49-60 61-68

歴代誌第7章  
 17 祈りし、あなたがたも願って、私があなたがたの前  
 に置いた定めと戒めを捨て、行って地の神々に仕  
 え、それを行はば、  
 歴代誌第7章  
 17 私はあなたがたの身と地を夜去り、また私の  
 名のため地をこの宮を築くに役立たせ、  
 ももろの民の心にとどまらざり、笑ひ、  
 歴代誌第7章  
 17 21 主の宮は高けれど、ついに、そのかたわら  
 過る者は皆驚いて、「何ゆえ主はこの地と、この宮  
 とにこのようにされたのか」と言うであらう。  
 歴代誌第7章  
 17 22 彼はその命をたて、  
 23 この地から出た彼の神、主の神であらう、  
 24 この地を去り、それを拜ひ、それに仕えたため、主は  
 25 このすべての衆を彼のの上を下したのである」と言  
 うであらう。  
 歴代誌第7章  
 17 26 あなたがたも父ダビデの非難のように私の前に来、私  
 27 が命じらばはりにすべて行って、私の定めと戒めと  
 28 は守らば、あなたがたもここに居り、  
 29 私はあなたがたの父に契約して、イスラエル地を  
 30 あなたの手に授け、  
 歴代誌第7章  
 17 31 今、この所にさげられる祈に私の目を聞き、耳を傾  
 32 け、  
 33 今、私は私の名をかくことと私の心は常に、この宮を  
 34 選び、かつ聖別した。私の目と私の心は常に、この宮  
 35 36

祈りに対する答えが、夜、神様が現れて答えてくれたということですが、いけにえを捧げたその神殿のことばの場所、至聖所のケルビムの間から語るというその場所です。その場所から聞いた初めてのことばということと同じようなものとして記録されている。最初の神様の神殿に捧げた祈りに対する答え。その答えの中に、これは第2歴代誌ですけれども、「この約束を果たしますよ。しかし、こうするとあなたは捨てられる」という箇所が続いています。

その箇所は、第2歴代誌7章祈りが終わったあとの箇所(16節から)「聞きますよ。いつもそこにわたしは共にいます。父ダビデが歩んだように歩むなら王座は硬く立てられます。しかし、…」というところです。「しかし」というところから(19節から)の4節あります。その4節が外側(19,22)と中側(20,21)ということで、中側(20,21)が宮について話しています。外側(19,22)が他の神々に仕えるという話をしています。他の神々に仕えるならば捨てられる(外側)。宮は笑い者になるというのが真ん中にあります。守らないならばという状態になってしまっている。約束ののろいを受けてしまっている状態ですというのが、42篇から44篇と69篇から71篇。69篇から71篇のほうは、特に偶像の神々に従ったがゆえのはずかしめをうけているかのようです。神様を捨てたので、神様に捨てられている、御顔を隠されている。宮の働きをしていないということですね。この状態がここに(中側が42-44に、外側が69-71に)あらわれてしまっている。

この中で、もう一度悔い改めるので、この宮の元々の役割、王座が硬く立てられるということが果たされるというようにという構成で、最初の2つ(42-44,45-48)、最後の2つ(69-71,72)、真ん中にダビデの道(49-54,55-60,61-64,65-68)というのがあります。

最初と最後、宮が建てられて安息が与えられることと、主が王であるということがあらわされることに対しての呪いの部分、懲らしめの部分がここにあつて、その懲らしめから救われて、本来の約束の祝福に至るという構成になっている「最初の主が語ったことば」(2歴代誌7:12-22)、至聖所で一番私たちが欲しいもの。神様に祈りということばを捧げると、神様が答えてくださったその「ことば」が第2巻の外側を構成しているということだと思います。